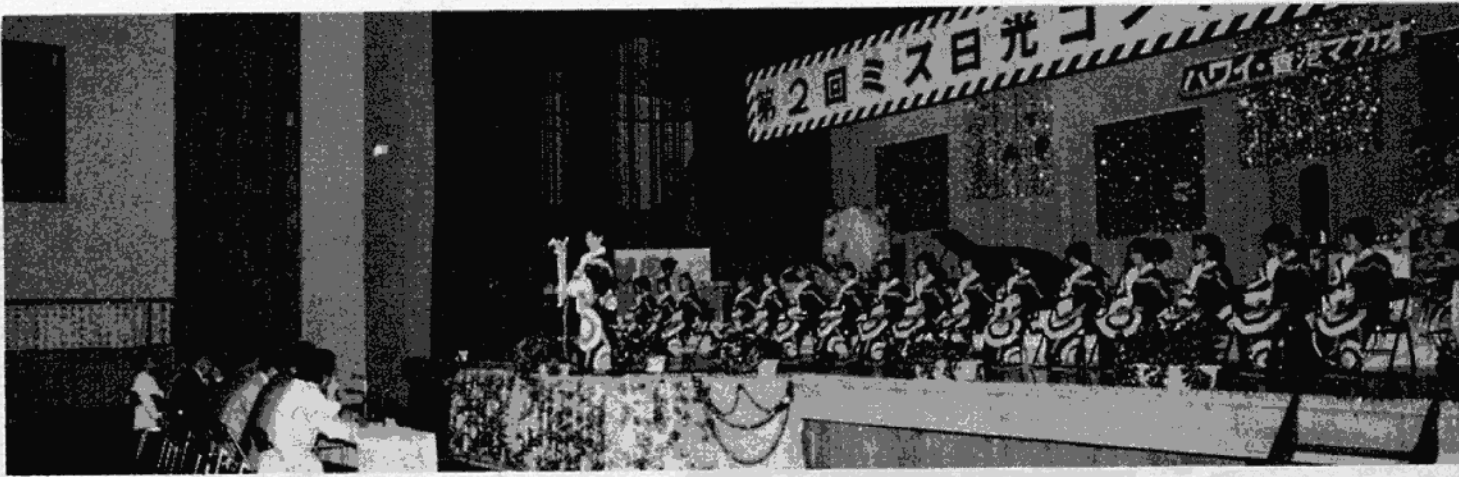


国体などでの活躍期待

第二代ミス日光に 新井敦子さんと武沢満子さん

コンテスト審査風景



日光納涼夏まつりの第一弾「ミス日光コンテスト」は、七月十九日、総合会館に十七人の候補者が勢ぞろいして開かれ、慎重な審査の結果、第二代ミス日光一位に新井敦子さん、二位に武沢満子さんが選ばれました。

コンテストは、午後二時に始められ、実行委員会会長の星野市長が「今年は栃の葉国体もあり、活躍する場が多いので、選出された人には、がんばってもらいます」とあいさつ。どん帳が上げられ、十七人の候補者がそろいの浴衣で次々に登場すると、会場から拍手

がわきあがりしました。

コンテストの審査員は、いずれも市外の人たちで、マスコミ関係者など八人が、審査に当りました。帯に番号札をつけた出場者は、一番から順にマイクに進み、氏名、職業、趣味、特技などの自己紹介をしてから、審査員と一問一答。



会長からトロフィーを受ける新井さん(左)と武沢さん

容姿、教養、言葉づかい、態度などをポイントに審査が進められました。十七人の審査がすべて終わると、別室で審査員だけの最終審査が開かれ、その間アトラクションとして、英幸児(尾瀬ひかる)の歌謡ショウと台湾民族舞踊ショウを開催。

アトラクション終了後、和田審査委員長から審査の講評があり、その後、結果の発表がありました。

今年度のミス日光第一位には、清滝一丁目七の七 家事手伝い 新井敦子さん(二二)、ミス日光第二位には、細尾町七三の六 家事手伝い 武沢満子さん(二〇)が選ばれ、第一代ミス日光の高橋恵子さんと鈴木順子さんから、それぞれクイーン冠が引きつがれました。クス玉が割られ、賞状、トロフィー、賞品目録などが、主催者、協賛各団体から贈られ、二代目ミス日光の誕生を祝福しました。

ミス日光に選ばれた、新井さんと武沢さんには、スポンサーからハワイ、香港マカオの招待旅行、ダイヤモンド指輪、振袖、電気製品、化粧品などの豪華賞品が数多く贈られ、出場者全員にも、浴衣や帯、参加賞が、また、ミス日光の推せん者にも、推せん者賞が贈られました。

新井さんと武沢さんは、今後一年間、国体をはじめ、市内外の各種行事に出席して、日光市のホステス役として活躍されることになっています。

上よろしくないと厳禁していたので、警察部は極力反対、内務部は、健全な娯楽ならば、むしろ奨励すべきだと、県庁内で意見が対立してまともになかった。所長は「精銅所の名誉にかけても健全な踊りにしてみせる」と、知事に口約し、遂に許可を得た。そこで一般の盆踊りと区別するため「和楽踊り」と命名。歌詞を従業員から募集し、大正三年九月六日、七日の夜、行幸啓第一周年・創業第八周年記念祭を実施した。以来大正十年まで挙行してきたが、九月初旬は、二十日の直後で悪天候のため、大正十一年からは七月の創業記念と九月の行幸啓記念の間で、八月六、七日を両記念日とし、現在まで永々と引き継がれてきた。昭和四十五年の万博にも、栃木県の代表として出演している。踊りの種類は、石投踊り・手踊り・笠踊りの三種で、石投踊りは、足尾銅山の選鉱夫たちが、鉱石を選別する動作から振りつけたもので、笠踊り・手踊りは、この地方どこでも踊られていた盆踊りからとったものである。

近年和楽踊りは各地で踊られるようになってきたが、残念ながら、その踊り方には、乱れが目立ってきている。(精銅所正調日光和楽踊会)